

〔巻頭言〕

今こそ SPF 養豚管理を！

(株)シムコ 園 田 昭 浩

年の瀬を迎え、巻頭言に何を書こうか考えていた時に、心配していた事態が起っているの、ここに提言したい。

わが国において、口蹄疫の終息以来、ここ数年、養豚業界を揺るがすような大きな疾病は発生していません。しかし、今年になってアメリカの PED が発生し、警戒していた矢先に、沖縄県、茨城県で発生、特に宮崎県、鹿児島県においては治まる気配もなく、拡大の一途をたどっています。1998～1999年にかけての南九州で大流行した当時、分娩舎の子豚が全滅した情景が今でも脳裏に焼き付いています。そのときに感じたのは、ワクチンもなく、治療効果もない疾病に対して、最良の策は農場防疫であるということでした。屠場出荷車および斃獣処理車、汚染農場間の人の出

入り、野生動物の侵入、物品の搬入で侵入を許してしまったことが原因で、消毒はもとより、自分の農場は自分で守る体制が最も重要であると痛感しました。その後、農場の衛生管理の強化やワクチンの開発・接種などで発生は消息しましたが、数年経った今年、再度発生、拡大しつつあります。ワクチンや設備の進歩、育種改良による豚の品質性能は日増しに向上している現代でも、防疫の不備があっては一瞬にして壊滅的な状態になってしまいます。前回の教訓を踏まえて最小限の被害に抑えるには防疫の強化しかないと思います。いつ何時、病気が侵入するかわからない時代、改めて SPF 養豚の衛生管理の重要性を見直す機会ではないでしょうか。